

科目名	基礎看護方法Ⅲ(看護過程) Fundamental Nursing Ⅲ		担当教員 (研究室番号)	灘波 浩子(204) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	灘波:hiroko.namba@mcn.ac.jp						
履修年次	2年次前期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)		授業形態	演習	科目等履修生	否
												オープンクラス	否
科目目的	個々の対象者に応用できる問題解決能力や思考能力を身につけるために、看護過程の一連の過程を紙上患者事例に適用することにより、看護過程の展開方法を学ぶ。												
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)											
	関連するDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。 F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現)											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の構成要素を列挙し、その内容を説明できる。 2. 事例患者の情報を、基本的看護の構成要素ごとに分類・整理できる。 3. 整理した情報を分析・統合し、事例患者の全体像として説明できる。 4. 事例患者の看護問題を列挙できる。 5. 事例患者の看護目標を設定できる。 6. 事例患者の状態に合わせた看護計画を立案できる。 7. 実施した援助を評価する視点を説明できる。 8. 責任を持って自己学習を行い、かつ積極的にグループワークに参加して意見交換することによって、自己の問題解決能力や思考能力を高めることができる。 												
成績評価方法(基準)	個人の課題レポートは、紙上事例患者の看護過程を展開した記録用紙とする。個人レポート(60点)、筆記試験(40点)による総合評価を行う。なお、個人レポート・筆記試験はそれぞれ60%以上の評価であることを単位認定の条件とする。 【重要】個人レポートを指定日時に提出しない場合は減点する。												
再試験の有無と基準等	複数回のレポート課題による評価を行うため、再試験は実施しない。												
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ, 第17版, 医学書院												
参考書等	ガーゼニア・ハンダーソン著, 湯橋ますほか訳: 看護の基本となるもの(再新装版), 日本看護協会出版会												
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業は、学習者の能動的な学習への参加を基盤に仲間と共に学び合う協同学習を取り入れて進めます。それぞれが責任を持って事前・事後課題に取り組み、グループの中でそれぞれの役割を果たしつつ、看護の思考過程に沿って、事例患者の看護について多方面から検討し、思考を深めていきます。 看護過程は、対象者の個性に合った看護援助を実施するために「必須のツール」ですが、簡単に身につくものではありません。これまで学んできた知識だけでなく、新たな学習も同時に行いながら、持てる知識と気力と時間をフル活用して取り組み、ぜひ自分のモノにしてください。												
備考	グループは、多様な学生が学び合うことをねらいとして、途中で再編成することがある。												
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法			
1回	オリエンテーション 看護過程とは 事例紹介				オリエンテーション: 学習概要、課題説明 看護過程の意義と、構成要素の内容について学ぶ。 事例患者の情報を読み解き、患者の概観をつかむ。				灘波、他	講義 演習			
2回	紙上事例患者の理解 アセスメント1 情報の確認・整理・分類				事例患者の常在条件・病理的状態について情報を整理(収集、確認・分類)する方法を学ぶ。 個人学習を基に、患者を把握するために必要な情報をグループで確認、分類する。				灘波、他	講義 演習			
3回	アセスメント2 情報の確認・整理・分類 (基本的欲求の状態①)				人間の基本的欲求をアセスメント(情報収集、確認・分類・整理・解釈・分析)する方法について学ぶ。 基本的欲求1項目について、情報の整理と分類・解釈・分析を深められるようグループで討議する。				灘波、他	講義 演習			
4回	アセスメント3 情報の確認・整理・分類、 解釈・分析(基本的欲求の状態②)				基本的欲求2~3項目について、情報の整理と分類・解釈・分析を深められるようグループで討議する。				灘波、他	講義 演習			
5回	アセスメント4 情報の確認・整理・分類、 解釈・分析(基本的欲求の状態③)				基本的欲求2~3項目について、情報の整理と分類・解釈・分析を深められるようグループで討議する。				灘波、他	講義 演習			
6回	アセスメント5 情報の確認・整理・分類、 解釈・分析(基本的欲求の状態④)				基本的欲求2~3項目について、情報の整理と分類・解釈・分析を深められるようグループで討議する。				灘波、他	講義 演習			
7回	アセスメント6 情報の確認・整理・分類、 解釈・分析(基本的欲求の状態⑤)				基本的欲求2~3項目について、情報の整理と分類・解釈・分析を深められるようグループで討議する。				灘波、他	講義 演習			
8回	アセスメント7 情報の確認・整理・分類、 解釈・分析(基本的欲求の状態⑥)				基本的欲求2~3項目について、情報の整理と分類・解釈・分析を深められるようグループで討議する。				灘波、他	講義 演習			
9回	看護過程と看護診断(NANDA-Iの概要)				看護過程においてNANDA-Iを用いる意義を学ぶ。				灘波、他	講義 演習			
10回	アセスメント8 全体像の描写、患者目標の設定				全体像を把握する意義について学ぶ。 グループワークにより、全体像図式化を深める。 全体像を整理することによって、患者を全人的に把握し、患者が目指すゴールの設定を行う。				灘波、他	講義 演習			

11回	看護問題の明確化、優先順位	看護問題を明確化し、優先順位を確認する方法を学ぶ。	灘波、他	講義 演習
12回	看護計画1 目標設定	看護問題が改善（解決）した、期待される結果としての看護目標を設定する方法を学ぶ。 事例の長期目標を確認し、短期目標を設定するための視点をグループで討議する。	灘波、他	講義 演習
13回	看護計画2 具体策の立案	看護目標が到達するための、具体策を立案する方法を学ぶ。 事例に対する、観察計画・ケア計画・教育計画を5W1Hで具体的に立案する方法をグループで検討する。	灘波、他	講義 演習
14回	看護計画の実施、評価、看護記録	実施した援助（計画）の結果から、目標が達成できたかを評価する方法と記録方法を学ぶ。 例題を用いて、援助した結果から評価する方法と記録をグループで検討する。	灘波、他	講義 演習
15回	事例展開のまとめ	これまで学んできた看護過程を整理する。	灘波、他	講義 演習

学 習 課 題

1回目（事前）	テキスト「基礎看護技術Ⅰ」p.218-238を読み、看護過程の概要と構成要素を知る。
（事後）	1. 事例を読み込み、わからない語句は調べておく。 2. 事例を理解するために、発達心理学・臨床病態学等を復習し、その他必要な参考書を探す。 3. 看護過程の展開で用いる記録用紙を指定された方法で1枚ずつダウンロードし、書式を確認する。
2回目（事前）	1. 記録用紙の左側に2穴を空け、それぞれにインデックスを付けて紙ファイルに綴じ、授業に持参する。 2. テキスト「基礎看護方法Ⅰ」p.238-243を読み、アセスメントの情報収集の段階を理解する。 3. 事例患者の情報から、該当年齢の身体・精神・社会的特徴を調べて整理する。 4. 事例患者の主要疾患に関する関連図（疾患の機序・症状・治療・経過）を作成して持参する。 5. 出来る範囲で、記録用紙①②に必要な情報を記載する。
（事後）	1. 事例患者の情報を記録用紙①（常在条件）、②（病理的状态）に整理し、完成に近づける。 2. 記録用紙③（病態関連図）の完成度を高める。
3回目（事前）	1. テキスト「基礎看護方法Ⅰ」p.243-252を読み、アセスメント（情報の収集と分析）の方法を理解する。 2. 基本的欲求の状態（呼吸・飲食）を判断するために必要な情報を患者情報【カルテ】から抽出する。
（事後）	1. 記録用紙①、②、③を完成させる。 2. 記録用紙④（呼吸・飲食）について、必要な情報を整理し、分析・解釈まで記述する。 3. 記録用紙④（基本的欲求の状態）の全項目について、情報の分類・整理を行う。 4. 上記1～4をファイルに綴じ、期日までに提出する。
4回目（事前）	指定された基本的欲求の状態について、必要な情報を記録用紙④に整理する。
（事後）	1. 指定された基本的欲求の状態について、記録用紙④に必要な情報を追加し、分析・解釈まで記述する。 2. 記録用紙①、②、③および指定された基本的欲求の状態（記録用紙④）の不足を補い、完成度を高める。
5回目（事前）	指定された基本的欲求の状態について、必要な情報を記録用紙④に整理する。
（事後）	1. 指定された基本的欲求の状態について、記録用紙④に必要な情報を追加し、分析・解釈まで記述する。 2. 記録用紙①、②、③および指定された基本的欲求の状態（記録用紙④）の完成度を高める。
6回目（事前）	指定された基本的欲求の状態について、必要な情報を記録用紙④に整理する。
（事後）	1. 指定された基本的欲求の状態について、記録用紙④に必要な情報を追加し、分析・解釈まで記述する。 2. 指定された基本的欲求の状態（記録用紙④）の完成度を高める。
7回目（事前）	指定された基本的欲求の状態について、必要な情報を記録用紙④に整理する。
（事後）	1. 指定された基本的欲求の状態について、記録用紙④に必要な情報を追加し、分析・解釈まで記述する。 2. 指定された基本的欲求の状態（記録用紙④）の完成度を高める。
8回目（事前）	指定された基本的欲求の状態について、必要な情報を記録用紙④に整理する。
（事後）	1. 指定された基本的欲求の状態について、記録用紙④に必要な情報を追加し、分析・解釈まで記述する。 2. 指定された基本的欲求の状態（記録用紙④）の完成度を高める。 3. これまで取り組んだ記録全て（記録用紙①～④）をファイルに綴じ、期日までに提出する。（配点：26点）
9回目（事前）	テキスト「基礎看護技術Ⅰ」p.256-261を読み、看護問題と看護診断の概念を知る。
（事後）	記録用紙④全ての基本的欲求の状態について、不足を補い、アセスメントを完成させる。
10回目（事前）	テキスト「基礎看護方法Ⅰ」p.252、p.256-261を読み、全体像の図式化・文章化と、看護問題の明確化の方法を理解する。
（事後）	事例患者の全体像を図式化（記録用紙⑤）、言語化（記録用紙⑥）し、看護問題の目安を付ける。
11回目（事前）	テキスト「基礎看護方法Ⅰ」p.259-263を読み、看護問題の優先順位決定と期待される成果の明確化の方法を理解する。
（事後）	1. 記録用紙⑤（全体像図式化）、⑥（全体像文章化、長期目標、看護問題リスト）を完成させる。 2. これまでの全ての記録用紙の完成度を高める。
12回目（事前）	1. テキスト「基礎看護方法Ⅰ」p.263-266を読み、看護計画の立案と表記方法を理解する。
（事後）	これまでの全ての記録用紙の完成度を高める。
13回目（事前）	指定された看護問題について記録用紙⑦（看護計画）の「短期目標」「具体策」をまとめる。
（事後）	これまでの全ての記録用紙の完成度を高める。
14回目（事前）	1. テキスト「基礎看護技術Ⅰ」p.266-270を読み、実施の流れ・評価の方法を理解する。 2. テキスト「基礎看護技術Ⅰ」p.270-276を読み、看護記録の目的、記載時の注意点を理解する。
（事後）	1. 優先順位1位の看護問題について、記録用紙⑦（看護計画）の「短期目標」「具体策」をまとめる。 2. これまでの全ての記録用紙の完成度を高める。
15回目（事前）	看護過程で学んだ内容について、疑問点や課題を明確化してくる。
（事後）	1. 最終提出に向け、個人レポートの完成度を高める。 2. これまで取り組んだ記録全て（記録用紙①～⑦）をファイルに綴じ、期日までに提出する。（配点：34点）

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。